第1回 瑞穂町自立支援協議会会議録
(要点筆記)

日程：令和6年8月2日（金）

時間：午後1時から午後2時30分まで

場所：町民会館 第2会議室

出席者：戸村会長、堀之内副会長、谷口委員、類家委員、隅河内委員、宮岡委員、野邊委員、石藏委員、鈴木委員、杉浦委員、田中委員、西出委員
計12名

欠席者：平沼委員、吉岡委員

事務局：田野課長、若松係長、田口

- 議題
- 1 委員委嘱について
 - 2 正・副会長の互選について
 - 3 各部会の委員編成について
 - 4 今年度の協議会について
 - 5 基幹相談支援センター開設について

配布資料について

- ①会議次第（A4 1枚）
- ②瑞穂町自立支援協議会委員名簿（A4 1枚）
- ③瑞穂町障害福祉関連マップ（A3 2枚）
- ④発達障害啓発週間・世界自閉症啓発デー 作品展示（A4 2枚）

開会

事務局・課長挨拶

1 議題

1 委員委嘱について（資料②）

委嘱状・辞令書机上配布

2 正・副会長の互選について（資料②）

事務局より会長を戸村委員、副会長を堀之内委員へ指名

3 各部会の委員構成について（資料②）

事務局

・自立支援協議会は生活部会と就労部会の2つの部会で構成。今年度も同様とした。また、生活部会には相談支援事業所（ひまわり、フラップ）、就労部会には就労関

係施設（作業所、ハローワーク職員）の方をオブザーバーとしてご参加いただきたい。

質疑・その他

- ・部会の開催回数の予定はあるか。

→部会は特に開催回数の決まりはない、皆様で決めて頂いて構わない。議論したいものがあれば活発に開催することも可能。

4 今年度の協議会について

事務局

- ・今年度の協議会は事業所マップの作成、各部会から上がってきた議題について協議し、地域に不足している資源等を検討していき、また第7期障害福祉計画策定に伴い進捗状況を確認していきたい。

質疑・その他

- ・個別の事例検討からニーズを把握して、地域ニーズとして捉え、足りない資源を活発に協議会で課題を提言し町づくりに活かしていく流れになる。今後自立支援協議会の中で、個別事例検討会を相談支援事業の職員が参加する生活部会で試験的に行っていくことになるかと思う。

- ・去年個別事例や災害関係について議題や議論があったのであれば教えていただきたい。

→過去に個別の事例検討はなかった、それぞれの場合（民生委員、各事業所等）での課題を共有することは今までなかった。地域の課題を取り上げることは新たな形となる。

質疑・その他

- ・自立支援協議会は障害者総合支援法に位置付けられており、計画策定に関しても同様。瑞穂町は昨年度計画を策定しており、課題について声が反映されている。計画進捗を検証すべきだが、協議会がするのか。また、常に地域課題を集積していくことが大事。地域課題について個別事例から見えてくるもの、町全体での課題から見えてくるものがある。生活部会の個別事例から見えてきた課題をどのようにして政策に取り組むのか。町・都の役割、インフォーマルな社会資源をどうするのが次の課題。町の考えとニーズが合っているか、ブラッシュアップが必要。1つの例が大事になる。

質疑・その他

- ・個別の事例検討を生活部会で行うことはいかがか。

→今まで生活部会では個別事例検討は取り上げていない。

質疑・その他

・事例をあげることで同じような悩みや課題を抱えているケースも出てくる。具体的な対策が対応できることが大事。

→相談支援事業所が不足していることが課題。現状は他市の相談支援事業に対応していただいている。町内の相談支援事業所はそれぞれ対応している障害種別が違うので、基幹相談支援センターを中心に吸い上げることも含め部会で検討することはいかがか。

→計画相談や一般相談も受けていた、今後は障害種別に関係なく、間口を広げて相談を受けるため様々な相談が入ってくる。そこで得られた課題・ニーズを生活部会で情報共有をし、課題を解決出来れば良いと考える。

5 基幹相談支援センターの開設について

事務局

・昨年度の自立支援協議会で基幹相談センター開設について社会福祉協議会に委託したいとお伺いをし、ご異議等もありませんでしたので、10月に開設の運びとなりました。すでに例規類の告示を済ませている。主な業務として相談体制の強化、地域移行、地域定着の促進、権利擁護、虐待防止に関すること、自立支援協議会の運営に携わっていただくこと、また課題を吸い上げること等になる。身体・知的だけでなく、精神・難病・児童の相談も対応するので、幅広く相談を受けることが可能となる。

質疑・その他

・町民に周知をお願いしたい。幼児の保護者から相談を受けた際、保育園に入りたくても、断られてしまったと聞いた。このような方の相談を受けてほしいと考えている。

・広報等への掲載はあるか。

→広報は10月に掲載予定、チラシは町内会へは回覧板で周知を図る。また近隣の事業所へも通知する。マスコミへの周知やホームページも掲載し、町のメール配信も検討したい。また子育て世代の予防接種アプリがあるのでピンポイントで周知が図れる。

→様々な媒体や世代にあったチラシやSNS等での周知を考えている。

→作品展等啓発においてもチラシの掲示も可能と考えている。

質疑・その他

・地域の皆さんと手を取り合いながら瑞穂町ならではの基幹相談支援センターを作り

上げていただきたい。

質疑・その他

・計画相談支援事業所は全国的に不足している。粘り強く訴えていくことが必要。町の規模だと重層、包括等も求められる。町としてどこまで基幹として業務を行うのか、位置づけを確認したい。

→現状、重層的相談支援体制は出来ていません。障害者計画の上位計画である地域保健福祉計画が次年度策定予定となっており、その計画の5年間の中で構築していく方針です。現状、ここまでが決定している。8050問題等についても高齢部局との連携は必須と考えています。次の地域保健福祉計画の中で、基幹相談支援センターと高齢部局の地域包括支援センターとの連携・統合などどのようにすれば良いのかを進めていければと考えている。

→以前、「基幹としてどこまでやるのか」という話がありました。町として社会福祉協議会と協議し子どもから高齢の方まで、幅を広く考えている。町もサポートをしながら進めていきたい。地域に沿った作り方を考えていますので、その際は自立支援協議会の皆様にもご相談させていただきたい。

質疑・その他

・町の実情に合わせた基幹を考えると、広く相談を受けその中で専門的に障害を受け入れ、それ以外は該当する担当へ依頼し、住民の方の相談窓口とする、様々な相談に乗ることで組織の力が上がる。もし断り続けてしまうと組織の力が上がらない。様々な相談を受け対応することにより課題が見え、組織の力が上がる。

→基幹相談支援センターの名称に障がい者をあえて付けていない。重層的相談支援体制を今後構築するにあたり、ステップアップとしたいと考えている。

→社会福祉協議会では様々な事業を展開している。そちらを見込んでいただいて基幹相談支援センターをお任せいただいたと感じている。今まで計画相談は身体と知的のみ対応しており、精神の相談があった際他の事業所に依頼していたが今後は依頼するだけでなく、その後のフォローアップを基幹として対応していきたい。

質疑・その他

・障がい児とは幼児や未就学も含まれるか。

→幼児も含む。妊婦から未就学は保健センターが総合的に担っており、就学から高校までは子ども家庭支援センターが担当している。組織改編があり子ども家庭センター課ができ、一層連携し総合的に支援ができる。今後相談場所がわからないということがないよう周知していくことが必要と考える。

→本当に悩んでいる方へ真摯に支援ができると良いと考える。基幹相談支援センター開設により、地域のネットワークが更に横断的に連携が取れるようになる。

3 その他（資料③、④）

事務局

- ・障害福祉関連事業所について、瑞穂の福祉に自立支援協議会監修として掲載している。居宅介護の事業所1か所が6月をもって廃業となり、また放課後等デイサービスが1か所開設されました。
- ・発達障害啓発週間・世界自閉症啓発デー作品展示の写真について、過去の委員から町の中でも障害についての理解・認知が進んでおらず、グループホームの開設に繋がらないというご意見がありました。少しでも啓発に役立てばというところから12月と3月に庁舎内での作品展示を大きくスペースを取り、事業所のチラシ等も展示・設置しています。
- ・今年度の自立支援協議会の開催を2回と考えています。次回は2月頃の予定です、改めて日程調整を行います。

質疑・その他

- ・事業所マップについて人員関係で千種館という短期入所が廃止となったが瑞学園の施設でも短期入所での対応ができます。放課後等デイサービスのスウィングが廃止になり、同じ法人の羽村市にある五ノ神学園に統合し運営しています。
- ・事業所マップについて、青梅街道沿いに放課後等デイサービスが開設した話を聞きました。ご存知の方はいますか。
→開設はしていません、準備中であり今後開設予定です。
- ・地域区分が上がったことにより、この3年で児童の施設も含め増えてきたように感じている。
→5年前程は年間で1件開設の相談があるかどうか程度でしたが、最近は年間で5～6件あります。
- ・今後もグループホームの相談が増えることを期待しています。

質疑・その他

- ・病院では日々様々なケースを対応している、生活の視点としては抜けてしまうこともあるが、地域の皆様がどう考えているか非常に勉強になり、患者への助言に繋がる。計画相談支援事業所が不足しているということですが、こちらも地域に向けて対応していく中で今後相談させていただきたい。
- ・現在就学相談として、学校入学に向けて対応している。第一小学校・瑞穂中学校に知的固定の特別支援学級があり、今年度第四小学校に情緒・自閉症の特別支援学級が

できました。身体については村山特別支援学校、知的は羽村特別支援学校があり連携をしている。放課後等デイサービスを利用しているお子さんも多い、情報共有しながら今後も連携していきたい。

- ・個別の事例検討についてとても分かりやすかった、今後もお話しが聞けたらと思います。

- ・若い世代の方が会に入って貰えたらと思うが、なかなか増えないことが悩み。良い案があれば教えてほしい。

- ・お子さんが障害者手帳は持ってないが一小は受け入れてもらえない、四小まで自力での登校が出来ず、羽村特別支援学校に行けるか分からない。という話があったので、今後の相談体制や連携を取らせていただきたい。

- ・私たちの事業所は精神障害の方を対象としている。背景に地域・社会・家族等様々な問題があるがどの障害であっても変わらないと思う。様々な立場で活発な意見をお願いしたい。